

京都産業大学 ことばの科学研究センター 2024 年度第 6 回研究会

日時：2025 年 1 月 22 日（水）14:00～16:00

場所：4 号館 2 階 総合学術研究所

フアン・ルルフォがメキシコの国民的作家になるまで 仁平ふくみ（外国語学部准教授）

フアン・ルルフォ(1917-1986) は代表作である中篇小説『ペドロ・パラモ』(1955) と短篇集『燃える平原』(1953) の二冊しか出版していないにもかかわらず、二十世紀メキシコを代表する作家と位置づけられるようになった。田舎町に生まれた作家が短期間のうちに有名になるという、ルルフォがたどった経緯は当時としては珍しい。彼が国民的作家となってゆく背景には、メキシコアイデンティティの模索、理想的な文学についての文壇における論争、スペイン内戦など様々な要素が絡みあっている。当時のメキシコの状況やルルフォ作品に対する批評を確認しながら、彼の作品がメキシコ文学界において特別な地位を占めるに至った流れを分析する。

Because X: because の新たな用法とその使用範囲 加野まきみ（ことばの科学研究センター員・文化学部教授）

because は従属接続詞として節を従えるのが通常だが、2010 年代以降、SNS を中心に Because reasons. Because science. といった構造が広がり、「because の前置詞化」として注目されたこともある。この「because X」構造では、X に名詞だけでなく形容詞や間投詞など多様な語が生起し、現在ではニュースメディアなどでも使用されている。本発表では、**because** の通時的変化をたどり、新用法の起源を探るとともに、「because X」構造の共起語やその品詞、使用されるメディアや文脈の特徴をコーパスを用いて分析する。